

センセイコール (8)

11) 文字入力枠(テキストボックス)の横幅を小さくしたら、文章の表示が変になった
これは、右のような状態です。

前回のインデントでも説明したように、原因は、始めのテキストボックスに文字を入力したときに、枠の右端に文字が届いたところで改行(Enter キー)を押して、強制的に次の行の行頭から続きの文字を書き始めたことによります。

改行マークは、ワードでは「段落記号」と言って、段落の切れ目を意味します。つまり、この記号の次に来る文字は、段落の1文字目になります。つまり、次の行の書き始めの文字です。

テキストボックスの幅を狭くした場合、段落の切れ目以外で段落記号が配されていると、そこから、文字は次の行に表示されますから、「表示がおかしい」ということになります。

段落記号は、ワードや一太郎といったワープロソフトでは、画面に記号として表示されますが、段落の切れ目でないところにこの記号があれば、使い方が誤っていることがわかりますが、アプリケーションによっては、段落記号の表示がないものもあり、(イントラパケッツなど)テキストボックスの幅を変更して初めて、行末で改行していることに気づきます。

コンピュータは、文字を入力する範囲を溢れて文字が入力された場合、自動的に続きの文字を次の行に送るようになっています。この性質を、上手に使ってください。

段落記号はコンピュータの中では、一般の文字と同じに、1文字として扱われます。ですから、不要な段落記号は、Delete キーや、Backspace キーで削除することができます。

改行でレイアウトする習慣をつけてしまうと、コンピュータで自由な文書を作るときに、大変使いづらいことになります。改行すなわち「段落の切れ目」であることを、しっかり意識して文書作成しましょう。

吾輩（わがはい）は猫である。名前はまだ無い。

どこで生れたかとうと見当（けんとう）がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていた事だけは記憶している。



吾輩（わがはい）は猫である。
名
前はまだ無い。

どこで生れたかとうと見当
（け
んとう）がつかぬ。何でも薄